

会 議 録

会議名	令和元年度 第1回 菊川市総合計画審議会
日 時	令和元年7月24日(水) 13:30～
場 所	菊川市総合保健福祉センター「プラザけやき」2階201会議室
出席者	総合計画審議会委員10名、市長、副市長、企画財政部長、生活環境部長、健康福祉部長、こども未来部長、教育文化部長、消防長、病院事務部長、企画政策課長、政策係
議 事	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員紹介及び委嘱状交付 3 新委員あいさつ 4 市長あいさつ 5 会長あいさつ 6 副会長あいさつ 7 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成30年度 第2次菊川市総合計画進捗状況について (2) 平成30年度 菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況報告について (3) 第2期菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略について 8 その他 9 閉会
議事要旨	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 <ul style="list-style-type: none"> ・開会宣言 ・出席者数確認(15名中10名 会議成立) ・資料確認 2 委員紹介及び委嘱状交付 3 新委員あいさつ 4 市長あいさつ 5 会長あいさつ 6 副会長あいさつ <p style="margin-left: 2em;">※市長退席</p> <ol style="list-style-type: none"> 7 議事 <p>事務局 : それでは、これより議事に入ります。議事の進行につきましては、菊川市総合計画条</p>

例第 17 条によりまして、会長に議長をお願いいたします。

会 長：それでは、菊川市総合計画条例第17条により議長を務めさせていただきます。

本日の議題は 3 件、次第にございますように、平成30年度第 2 次菊川市総合計画進捗状況、2 つ目が平成30年度菊川市まちひとしごと創生総合戦略進捗状況、2 つの進捗状況の報告に対して、ご意見ご質問等をいただき、それから 3 つ目が、第 2 期の総合戦略ということで事務局案が出ていますのでこれについて皆様から積極的な提言等をいただきたいと思います。ご協力どうぞよろしくお願いいたします。議事 1 と議事 2 を 2 つ合わせて説明していただいた後、それぞれにご意見、ご質問等をいただきたいと思います。その次に 3 番目の来年度以降の総合戦略実施に向けてぜひパンチのある新しいものにしていけたらと思っております。それでは事務局から説明をお願いします。

《事務局説明（議事 1 資料1-1・資料1-2、議事 2 資料2-1・資料2-2・資料2-3）》

委 員：まず 1 点は質問ですが、総合計画 10 ページ目標人口のところ、先ほど説明にもありましたけども、目標は 45,000 人にするということでよろしいですが、そのためにこの文章を見ますと出生率を高め移動率を改善して 45,000 人を目指すというようなことになっています。まちひとしごと総合戦略には出生率や移動率についての言及があるのですが、総合計画には特に目標あるいは記載はないということで良いのかということがまず 1 点目です。それから意見ということになってしまうのかもしれませんが、16 ページ以降の評価の見方の関係です。政策評価であるものですから、基本的には例えば 16 ページで言いますと「安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり」という政策に対して、実際の評価がどうだったのかをこの指標を絡めて書いていただくのがこの政策の総括ということだと思いますが、全体の書き方が事業中心の考え方で書かれていると思います。本来であればこの帰納法的な考え方ではなく政策から実際はどうだったのかを評価するという、どちらかという演繹的に「安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり」が実際にできたのか、できなかったのかというのが本来ここに政策の総括ということで書くということではないかと思えます。この指標の説明になってしまっていますので、これから工夫をしていかれた方が良くかなと思います。さらに言えばこの政策を構成する施策のところも個々に見ていきますとそれぞれやはり事業評価のようになってしまっています。例えば 17 ページの上に「安心できる子育て環境を整備します」と書いてありますが認定こども園の整備数についての説明になっており、これはこれで正しいのですが、実際は子育て環境がこども園化したことでどのような効果があったかを書いてもらうと市民の皆さんがおそらくそんなに良いことしてくれたのだという話になるものですから、そういう努力をされた方が良くかなと思えました。それともう 1 つは、22、23 ページを見ていただきますと、23 ページの中学校区を核とした学びの環境づくりのところ、指標を見ますと「大人になっても菊川市に住み続けたいと思う生徒の割合」、これはす

ごく良い指標だと思っておりますが、この評価がSになっています。目標値は上昇ということで現状値より上昇していればSということなのかもしれませんが、実際、実績のところを見ますと、平成 29 年より平成 30 年の方が下がっていてSになるということになっているものですから、ここは分かりにくいなという感じがします。そもそもこの設定が前年度より上昇するものであればSにはならないと思いますし、基準値より上昇すれば良いとすれば、その後の増減があっても全部Sになってしまうので少し考えられた方が良いと思います。併せて申し上げますとその上の「一人ひとりが生きる教育を推進します」というところではありますが、不登校児童生徒の割合はこの指標を見ますと増加していることになっています。それに対して施策の評価のところではそれでどうだったのか分からないものですからこのところをぜひそれに対しての書き方をさせていただく方が良いのかなと思います。

事務局：3点ご質問、ご指摘をいただきました。1つ目の総合計画に出生率、移動率に踏み込んだものがないということで、戦略にはあるがこちらにはないということですが、実際に総合計画の方には指標になってくるものが現在入っておりません。平成 27 年度から始まる総合戦略を先に作成し、平成 28 年度に総合計画を作成しましたが、その指標については、どの分野にも入っていないというのが現状でございます。人口をどう増やすのかということが総合計画に記載がないのはおかしいのではないかとご指摘だと思いますが、戦略に特化した部分があり、データのところに入っておりません。中間見直しがあるときに検討できればと思います。

2つ目の評価の書き方のところで、政策の総括や施策の評価のところでは昨年ご指摘いただいております。こちらから全庁的に指示するときも事業の羅列にならないよというところで指示をしたところではありますが、もう少しどういう効果があったのかというところまでなかなか表現が出来かねているもしくはできていないというご指摘がありました。そのところは内容的にももう一度確認をし、何人、人が集まるということではなく、菊川市としてどうなったのかそういうところまでというご指摘だったと思いますので来年度以降の評価につきまして庁内で共有をしてレベルを上げるようにしていきたいと思っております。

それから3点目の評価のところ個別の政策のところと、23 ページのところの前年度下がっているのにS評価であるところではありますが、段階的にずっと上がっていくのか、多少凸凹あってもトータルでいくのかということ、今年は達成したけれども、期待値を達成していけば評価がずっと良くなっていくことになろうかと思いますが、実はなかなか徐々に上がっていくというのも市民アンケートも含めてそうですが、凸凹がありますので、本当に期待値通りいくかということに不安がありました。あるいは何か一区切りのところで、成果が出るもの、例えば、何か施設を作ったということにならないと出ないものについては、達成値がいきなりどこかで 100 になりますが、そうでないときは、全然進捗というものが上がらないと思っております。この目標値が上昇というところが一つ課題だと思いますが、そのところについては、他のところの項目も含めて考えていきたいと思っております。

委員：指標の設定が上昇というのが現状値より上であつたら良いという考え方で多分やられているのかと思いますが、そこは少し考え直した方が良いかなと思います。

会長：評価については、凸凹はあるにしても、もともとの上昇がどこを基準にしているのか明確にしておいた方が良いでしょう。他にいかがでしょうか。

委員：2点、質問、意見を述べさせていただきます。1つは今、先ほど委員がおっしゃった人口動態の件ですが、人口推計をこの総合計画では、国の試算より上を取っていたのですが、実際の今の人口動態を見ますと増加傾向にあります。出生数は違いますが、増加傾向であることは間違いないとそれが外国人の方の居住があるかということもいろいろ問題があるかとは思いますが、人口が減ってきている状況と増えてきている状況を考えたとき、やはり市として施策の転換をする必要があると思います。例えばインフラを予定から増やさないといけない、子どもの出生に対してももう少し対応を考えないといけないということがあると思います。総合計画なり、予算を組んでいくなかで、今の人口動態の変化、読み違いにおいて考えられたことがあるのかどうか何か市の施策として変えるなりこれから変えなければならないと思うことがないのかということが1点です。それからこれは少し観点が違いますが、オリンピックまで1年、ラグビーも9月にございます。いろいろ話題になっているにも関わらず少し菊川の影が薄いなど、これは開催種目だとかキャンプ地の可能性だとか理由はあるにしてもやはり大きなイベントがあればそれをきっかけとして何か考えるのが行政施策の1つだと思うのですが、何かオリンピック関連、ラグビー関連で市の活性化を目指して実施しているような事業が今考えられるのか、実施していることがあれば教えていただきたいと思います。

事務局：人口動態の変化に対する施策の変化ですけれども、やはり1つは人口が増えている要因の1つとして外国人の方が増えている要因があると思っています。日本人も若干増減がありますが、増えている部分もあります。やはり市として外国人の方が多いというのは事実でございます。まず1つ目の人口動態の変化に対してということについて、やはり多文化共生という意味ではこれまでも力を入れてまいりましたが、今後も多文化の部分には力を入れていかなければいけないと考えているところでございます。また、これはもう少し先を見た話しになろうかと思いますが、年少人口がさほど変わっていないこともありますが、やはり地域によってこの差はございます。増えている地域も減っている地域もございます。先日教育長ともお話しさせていただいたのですが、子どもの教育にとってどういう方法が良いのかということ、これからの教育の施設、それから教育の在り方についてはやはり、考えていく時期に来ているなということがあります。1つの例として申し上げます。これは菊川が、ということではありませんが、やはり小中一貫という問題、義務教育という問題もありますので、今後そういった施策も行っていく必要があるのかなと思います。また、さらに労働力の不足という

ことも市長からありましたが、やはり女性の労働力、高齢者の労働力というのは、どうしても今後も増やしていかなければならず、特に女性については、働く環境ということで今年10月1日から幼児教育の無償化ということも始まりますので、市として今後も引き続き力を入れていく思いがあります。具体的な答えにはなっておりませんが、人口動態を踏まえた施策としてはこのような状況です。2点目のオリンピックとラグビーの関係ですが、委員がおっしゃったように少し菊川市については薄いかなというところは反省しております。オリンピックの例を1つ挙げますと聖火ランナーのコースから外れてしまったということで、これについては市内でかなり残念だという意見が出ております。今取り組んでいることは言えないのですが、市内でそういったご意見をいただいたということで情報共有して出来ることがあれば取り組んでまいりたいと思います。

会 長：人口動態の移住者が増えており、特に外国人が増えているということで、大きな制度改正があったものですからそれに応じて市の方でどう対策をするのか、技能実習生が増えるのか、あるいは、ちゃんとした雇用の外国人が増えるのか、あるいは子どもたちの問題もマスコミでよく報道されますので、その辺で何か新しい政策を打ち出しては良いのではないかと気がしております。これは総合戦略を作るときも私の方から提案させていただいたのですが、総合計画でもそういうことを見込んで良いのではないかと考えております。その辺また次の機会にでもお伺いできればと思います。他にご意見はございますか。例年ですと各委員の皆様順番にお話ししていただいているのですが、今日は3つ議事があり時間が足りなくなるものですから、総合計画については中間見直しもありますので、ご意見としてはよろしいでしょうか。あるいは総合戦略の方でもオーバーラップしておりますので、そこで激しく議論していただくのも良いのではと思ひまして、議事1の方はここでまとめまして、次の総合戦略の評価についてご意見ご質問いただければと思います。なお私の方から修正をさせていただきたいと思ひます。合計特殊出生率がパーセントの単位になっておりが、間違いでして、合計特殊出生率はパーセントではございません。これは15歳から49歳までの女性はその期間に間に1人の女性は何人子どもを産むかということでございますので修正していただきたいと思ひます。それでは総合戦略についてご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

副 会 長：先に一つ質問をさせていただきます。6ページの基本目標2 転入超過数、平成30年度537人、桁がすごく大きいのですが、その要因についてご説明いただければと思います。それから、私の気になっていることです。「儲かる次世代農業モデルの推進」ということですが、「付加価値の高い農業モデルの創出」、全体の中で菊川の場合は、ちゃまめとかいろいろなものを作って付加価値を上げた農業を進めていき、ブランド化の1つになろうかと思ひますが、これが事業として成り立っていけるのか、見通しが既に立っているのかどうか、農家が生活するためのだけの生産性なのか、それとも事業としてしっかり利益を上げるだけの展望があるのかその辺をご説明していただきたいと思ひ

ます。

事務局：まず次世代農業の今後の展望ということですが、菊川市では特産物事業として、ちゃまめ、オリーブを作ろうということで数年前から総合戦略に位置付けて取り組んでおります。その中でちゃまめについては、スーパーや都内百貨店で販売できる状態になっておりますが、課題としては生産者が限られること、広がらない要因の一つであります。事業として、農業者の所得向上を目指して特産物化を行っており、特産物に対する補助、複合経営の推進ということで、茶の価格低迷の中、茶から他の作物に転換するにあたり補助事業を実施しております。実際補助事業を活用していただき、茶からオリーブ等に転換していただいておりますけども、特にオリーブについては、すぐに収穫、出荷できるものでもないため、長期的に見越して、5年後、10年後、茶に次ぐ特産物として、ちゃまめ、オリーブが菊川市内で生産されることを目的に事業を実施しております。オリーブ以外につきましても複合経営として、茶の生産に取り組まない時期にメキャベツ等の作物を農業者が生産していくために複合経営のモデルを周知するなどJAとも連携して取り組んでおります。

人口の質問に対して説明させていただきます。537人の転入超過ということで、その内訳の質問かと思えます。これに加えて人口の自然増減、職権消除というものもございまして、年度末比の日本人、外国人の話をさせていただきたいと思えます。平成31年の3月現在の外国人の数は、3,450人ということで総人口の7.14%でございます。昨年の3月時点、一年間で527名増えました。対して日本人は一年間で57名減っております。差し引きまして職権消除等があり、数字は合いませんが、人口増の要因は外国人であります。先週ぐらいに、新聞に平成30年中の暦年ベースの全国の人口動態が載りましたが、それを見ますと県内で人口増加しているのが、3市1町、袋井、掛川、菊川と長泉、そのうち日本人で人口増しているのは、長泉だけかと思えます。近隣の中でも外国人がここ数年ものすごい勢いで増えているという状況です。

事務局：今、副会長から転入超過の理由ということでありましたが、理由を分析しているわけではないのですが、事例を紹介させていただきます。菊川市の過去の人口について、ご説明させていただきますと、平成20年くらいまでは、49,900人くらいまで人口が実は増えておりました。平成21年になりまして、49,477人ということでその後、数年間は、人口減少が続いたということでございます。その時に、これはあくまでも推計ではありますが、分析したときに実は外国人が多く減っていますが、人口が減ったところの1つの大きな理由として平成20年秋にリーマンショックがあったということです。そのリーマンショックを境にこの地域の有効求人倍率が、1近かったものが、0.4を割り0.3くらいまで下がっております。やはり有効求人倍率が減っていくと人口が減ったということもございました。これは直接的な理由かどうか推測でしかないわけですが、今、景気が非常に上がってきており、有効求人倍率も上がっている時期だと思えます。外国人の方が増えている傾向と考えますとやはり景気によって外国人の方が増えたり減ったりする、今は好景気ですから外国人の転入が増えているのではないかといえる

のではないかなと私自身は考えております。あくまでも正式なものではございませんが、過去にはこのようなデータもありますし、市として有効求人倍率と人口の関係を調べたこともございますので、参考までに申し上げさせていただきます。

副会長：先ほど農業に関する説明いただきましたが、新しい事業を展開していくとなると農業の場合、確かに5年、10年というスパンで考えていかなければいけないのですが、これから5年、10年経ったときに今の状態で、要するに環境がすぐに推移していくかどうかという見通しを立てないといけないと思います。現実には個人で経営しているお茶農家は急激に廃業していますよね。乗用機械が入るところだけまとめて作る人がやっていますが、それ以外はすべてそのままになってしまっている状況で、その人たちが高齢化でお茶の耕作が出来ない。だから、今の菊川市の農業をやっている人達が、副業で5年、10年やっていけるかという見通しを立てながらこういうものを進めていかないと、場合によっては、付加価値を付ける農業をやりますと音頭を取っても先ほど説明があったように要するに手を挙げる人がほとんどいないと思います。例えば農地を借りる人たちが、地元の間人ではなくて会社組織の人たちが、外から入ってきてやる、そういうものが増えても菊川市としての発展はないですよ。雇用面が少しはあるかと思いますが、雇用面といっても最低賃金で、どちらかという地元の人たちよりも外国人のアルバイトを使ってという業界もあるわけで、そうしていくと農地は荒地にはならないけれども菊川市として将来展望、明るい展望がないような状態になってしまう可能性があると思います。今回の菊川型農業モデルの創出はもう一度よく組み立てを考えていかないと、このままあと5年間農業従事者を募集しますよとか同じように取り組んでも、展望が見えてこないのかなとそんな気がしたものですから、他の委員の方もご意見があれば聞かせていただければと思います。

会長：農業は基幹産業ですので、少し議論をしたいのですが、時間があと実質30分ぐらいしかなくなってしましまして総合戦略についてこの後新しいところをやるものですから、それに合わせて現状の課題、疑問点そういうことを含めて一緒に発言していただくかなと思います。それでは事務局から議事3「第2期菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略について」説明をお願いします。

《事務局説明（議事3 資料3-1・資料3-2）》

会長：それでは、早速今までの総合戦略への注文と新しい総合戦略への提案等を言っていたきたいと思います。地方創生は、はっきり言って効果があまり十分見られておらず、地域の自主性がかなり阻害されてしまったと日経新聞の意見なども出ていまして地方創生見えぬ成果、それから国主導で地方の存在感が低下してしまったとかなりネガティブな感じが出ていますが、今後どんなふうに地方が盛り返すか、菊川がぜひ新しいムーブメントを起こしていただきたいなと思います。では、各委員から1人2分程度でお願いしたいと思います。

委員：まず1つ目ですが、公園アプリ、子育て支援です。もう既に菊川市にありますか。松下産婦人科で子どもと孫がお世話になっておまして、健やかに育てており人口増に役立っております。子どもには全く子育てしなかった私ですが、なんとか罪滅ぼしとして孫には頑張っております。ところが孫が来ると雨が降ると連れていくところがないのです。仕方なく磐田のららぽーとに連れて行くわけですが、公園アプリのような公園の場所や特徴がわかるアプリを作っていただければ良いかなと思います。ぜひお願いしたいと思います。さて、教育の関係ですが、23ページです。教育環境の充実、ICTを活用した授業の推進ですけども、大変ありがたいことで、ハード面は、かなり菊川市は他市に比べて充実したと思います。今度はソフト面が新たなステージだと思っているのですが、小学校もいよいよプログラミング教育が始まります。しかしながら道徳の教科、外国語、英語科、それからプログラミング教育とこれまでの教育にさらにこれらが加わるわけです。学校側は手一杯でなかなか、どのように講習していくか苦労していると思いますが、そんななかで、教員にそのプログラミング教育、もちろん教員もやらなければいけないのですが、ぜひ、専門的な外部人材の活用を図っていただきたいと思います。ただ教員が地域の企業にプログラミングが得意な会社と連携することはなかなか難しいので、地域連携コーディネーターのようなものを設置して、英語教育で堪能な従業員がいればその方に来ていただいて英語教育も行ってもらうとか、プログラミングについては、堪能な業者がいれば専門家に来てもらい、コーディネーターを教員がやるのはなかなか難しいので、地域連携コーディネーターというものを整えていただきたいと思います。それからせっかくICTもほぼ100%導入されていますので、教員の実績93.2%は100%にしないといけないわけですので、残りの6.8%の先生はピックアップして、2日間ぐらいの講習を受けていただければすぐに100%になると思います。それからもう1つです。15ページ、「高校生へのこころとからだ」についてです。ここはぜひ多様性という言葉が出てきていますので、これから私は教育界に必要なキーワードはAIと多様性だと思っています。そういう意味で、多様性に寛容という言葉が出ておりますが、大変良い言葉だと思っています。ここで15ページに書かれています、LGBTとかSOGIといった問題が既に出ておりますので、高校生にはそういった問題をこころとからだの中でプログラムに入れていただければ、多様な人材が菊川では生き生きと暮らせるということになれば人口増にもつながると思います。それからもう1点、新しい言葉の中で多様性に寛容というフレーズがありますよね。多様性に寛容なまちは良い言葉だと思うのですが、この言葉の中に差別的な印象を受けます。どういうことかという多様性に寛容ということは、つまり寛容でないから寛容というわけですよね。多様性に寛容は、多様性は当たり前であって、それに対して寛容というのは少し違和感を受けます。文言がなんとなくまだそこに差別的な意味を感じてしまいます。これをそういうようなことを感じている人が文章を読んだときは、ちょっと違和感を受ける文章ではないかなと。多様性については、非常にここにに入れていただいたことはありがたいなと思います。

会長：ありがとうございました。個別に回答いただく前にまずは皆さんに発言してもらおうということで、次は重要なポイントということで、2015年ぐらいから農業は少し全国的には変わってきましたよね。新規就業者が増えて所得も増えて、輸出も増えて、法人経営がどんどん増えてきていますよね。今までずいぶん暗いと思っていたのですが、少し変わってきた感じがするのですが菊川はいかがでしょうか。

委員：個別にはそういう経営体が増えていますが、全体として決して農業生産量も生産額も上がってはいないそうです。農業生産額をみると経営農家の面積とか出ていますが、実は生産額や生産量の統計数値はあまりないですね。一生懸命探してもなかなか見つからない、市が把握しているか知らないけども、例えば直近5年間の菊川市における生葉の一番茶、二番茶の生産量や生産額を見ていたら急激に落ち込んでいると思います。総合戦略ですけども、第1期私たちが審議して言うのも変ですけども、基本目標に菊川型農業モデルというのは少し無理があったなと思っています。やはり農業モデルを1つ作って、人口も増えて、まちが形成されて人口流出がなくなるかというところ、農業モデルが36%の農地面積を持つ菊川市に普遍的なものになるのかと考えると結構無理があったということで、全否定するわけではなく1つの手法として評価もするのですが、今後は、SDGsも踏まえて36%の比率を持っている面積、これ農業経営の農地は生産財であってかつ環境財でもあります。このことを踏まえればこれをどうしていくのかということをご自身に盛り込んでいただきたいと思います。それこそ特筆すべきアグリ姫は辞めましょうよ。女性の農業参入を1人増やして、2人増やす、それは象徴的なことかもしれませんが、そんな時代ではないと、そういうこと自体が、ジェンダーじゃないかという流れの時代ですから、そこは考えたほうが良いかなと思いました。

委員：1つはやはり子どもを安心して育てられる環境がとても大事になり、まず保育園の充実ということです。おそらく保育園の待機児童は、菊川市は少ないと思いますが、まださらに働きに出たいと思っている女性も多いでしょうし、働きに出る必要がある女性も多いですので、より便利な、職場に近い、あるいは自宅に近い保育園に同じ子どもを入れるような受け入れ保育施設の充実をお願いしたいことと、保育園を利用するときには、業がなくてはいけないという縛りがなくなると良いなと思います。主婦の方で子どもを育てていても自分が自由になる時間が全くと子育てを苦しいと考えることがでてくるのではないかと思います。気軽に一時保育を利用できる環境というものがあると子どもが1人増えても頑張っていけると思う人が増えると思っています。あと、資料2-1の18ページのホームヘルプサービスの利用ですけども、私が診療していて出産前後に人手がなくて困るということを訴える方には市に相談するようお願いしますが、もっと利用して出産の前後だけでなく困ったときにすぐ助けてもらえることはもっと多くの人に知れ渡って気軽に使えるようになると良いと思います。

委員：私個人的にはSDGs、Society5.0に興味を持ちました。実際私も今日SDGsのバ

ッチは付けており職場の方で配られて取組みをさせていただいているのですが、今回第2期総合戦略の中でSDGsの視点で基本目標、基本方針を分類して戦略を作成するというになっておりますのですごく興味が沸きました。ぜひ期待しております。それから第2期における新たな視点の中で誰もが活躍できる地域社会をつくりというところで、女性、高齢者、障がい者、外国人など誰もが居場所と役割を持ち、活躍できる社会を実現することですが、とても良いと思います。やはり外国人の方は、菊川市の人口増加の要因になっているということで窓口にもやはり多くの外国の方がお見えになります。そういった方たちに支えられている菊川市ということで、そういった方たちが住みやすい、良いなと思っていただける菊川市に是非してほしいなと思います。そういった中で、また何かお役に立てることがあればやっていきたいと思いますので期待しております。

委員：全体を見た中で、この計画を作るときに遡るとやはり人口減少が大きな問題だったと思います。菊川市は始めの計画通り日本人の人口は減っていると思うのですが、それを補う外国人の流入が3,500人ぐらい、菊川市に入ってきてくれているおかげで48,000人を維持できていると思います。この菊川市の人口の7%以上を占める外国人に対応して行政で例えば言語に関しては翻訳ソフトを市民課に置くというような話も聞いておりますけども、それ以外にもやはり菊川市に生活していて、子育てから始まっていて、高齢になってくる人も含めて対応していくような対策課と言いますか、外国人対応窓口をそろそろ作る必要があるのではないかと思います。これはこの総合計画と問題は離れているわけですが、やはり人口減少に対応するためのストップという意味からすると外国人が流入して人口が増えているという状況は菊川市にとってプラスだと思いますので、これからこの対応していただきたい気持ちがあります。それから、この総合戦略を一言で言うと、自分が一戸の家庭の中で子どもが生まれてから、いろんな対応が行政や隣近所にどの程度助けてもらえるのかということと考えます。生まれた子どもを保育園、幼稚園に入れ、小学校に通わせ、中学、高校、それから大学に行きます。市内には大学はありませんので一時的には市外に転出することもあると思います。そんなことを繰り返してお父さん、お母さんにしてみれば仕事が市内にあるか市外に行くかというところから始まり高齢になった親もそろそろ要介護認定をもらわなければいけなくなり、デイサービスを受け入れてもらえるのか、その上に行きますと、老健とか特養に入所できるのかというようなことが家族として見てやはり重大なことだと思います。そういう意味からいうと菊川市は非常に上手くいっている方じゃないかなと私は思います。特に高齢者の健康状態と言いますか、介護認定を受ける前の人数が菊川市の場合には非常に高いということで、皆さんそれぞれ健康に気を遣っているのかと感じます。これが高くないということはやはり高齢者の医療費の負担それも今、月に5,000円くらいだと思うのですが、高いところでは、月8,000円ぐらいになっているところもありますので、それから見ても健康でいる人が多いということは、菊川市にとってはありがたいことかなと感じています。私は菊川市にずっと住んでいて満足しており、あまり不平不満がないのですが、それこそ家族という形態にもいろいろありまして私たちのような65歳以上

の夫婦暮らしという形になりますと今後10年ぐらいで心配するのはやはりそういう施設に入れるのかなということが気になってきます。また、若い世代で子育てしている方は子どもを安心して幼稚園や保育園に預けて夫婦で仕事ができるかということが大事なことになります。それぞれの家庭があると思うのですが、少子高齢化はもう止められないと思いますので、それはその対応としてやはり必要だと思うのですが、これはもう全国的な流れで、どうしてもそれをなかなか止められないところもありますので、やはり家庭が安心安全で家族が生活できるということは大事だと思いますので今までの方策は間違った方向に行っていないと感じております。

委員：私からは総合戦略の案と示していただいている中の3つ課題提起させていただきたいと思います。1つは先ほど会長を始め各委員の方がおっしゃったとおり多文化共生の話が出ていることは非常に良いことだと思います。ただ、多文化共生の中で、先ほど会長から言われたとおり雇用についてどう入れられるのかと、私も解決策、道筋が全然見えていないのですが、市として対応できることがあるのかどうか、そこが1点です。それから2点目が、経済の中で働く場があるまちの中で、企業誘致だとか創業支援があるのですが、それともう1つ事業承継がやはり今非常に大きな問題としてピックアップされていると思います。廃業するところがすごく多くてそれが経済に非常に大きな影響を与えていると、この点についても触れた方が良いのかなと思っていることが1点です。それと、もう1点、国は関係人口ということを出し出しています、ふるさと納税で関係する人がどれだけいるのかだとか、あるいは出身者で外へ出て行ってしまった人がどういう形で関わってもらえるのかだとかそういった形になるのかとは思いますが、そういったことが入れられるのかどうか私はノーアイデアで言っているので申し訳ないですが、課題提起とさせていただきます。3つと言いましたがもう1つです。先ほどありましたけどIT、ICT、IOTあるいはAIです。これは、今、藤枝では、社会実装をしようということで実証実験を行っていますけども、そういった形で菊川の中の社会に組み込むことができるのかどうかそういう観点も課題提起の1つとして提起させていただきたいと思います。それからもう1つ、細かい話でこれは資料2-3の交付金事業の評価の話ですが、1つは農学芸スクールの中で今後の方向性の最後のところに東京都、神奈川県自治体や企業と話しを進めと書いてあるのですが、これどういう他県との関わりがあってそれが話し合いを進めるとどういう体制強化につながるのかなと見ていて分からなかったのですが、ここは少し補足していただいた方が良いのかなということと、最後に5ページのところにあります指標の③で営農定着した農業女子の人数のところ難易度が低とありますが、この難易度が低いのは行政が実施する事業の進捗度合いで比較的コントロールしやすい指標と書いてあるのですが、農業女子の人数をコントロールしやすいのであればそもそももっと増えていると思います。

委員：先ほど委員から公園の件が出ましたけども、公園は使う子どもの年齢によってもいろいろあると思いますけども、小さい子たち用の公園とか、体育協会としては、都市公

園と付帯した体育施設ということで大きな運動公園を管理しています。西方の運動公園などを管理しているのですが、なかなか遊具とかの老朽化が激しく追いつかない状態です。それからたくさん修理しようとしても遊具の補修の部品とかもたくさんないものですから修理費もかかり、お金もないものですから安全にということで管理していますが頭が痛いところです。特色ある公園を菊川市内に体育協会が中心となって作ってというご意見もいただきましたけども全てにお金がかかるということで理想の公園はなかなかできないというのが体育協会としては、現実です。それから私、個人として義理の母96歳を家で介護しています。そんなときその姿を見ていると自分はどうなるのかなということをつくづく感じます。資料2-2のところにある高齢者の健康寿命の延伸とか若者女性高齢者が活躍できる地域づくりということに非常に関心を持ちます。高齢者で、地域で活躍するというと何歳ぐらいの人たちだとか、また、自分たちが入る施設が先ほど委員からもありましたが、地元にあるのかなと、現在義理の母が通っている掛川まで行かなくてはいけないのかといろいろな不安が出てきます。菊川市では、もちろん計画があると思いますがはっきりしっかりしたのを知りたいなど感じます。

会 長：それでは私の方から申し上げたいと思います。総合戦略の中で菊川市が先駆的に取組んだというのは郷土愛を育むということで高校生、中学生に地域の企業や役所あるいは団体も地域で若者にふるさとの状況を、それから地域の課題を2つの高校で地域課題をテーマに発表会を行い非常に素晴らしい取組みをしていたと思います。今回の第2次の地方創生の中で国は高校レベルのふるさと志向の教育を重点的にやりたいことを言っていて、そういう意味では菊川は全国に先駆けてやっていると言えると思います。私はここをもう少しバージョンアップしていただいて歴史、文化、偉人だとか、あるいは世界を目指すような内容、それから私は外国人を入れて良いと思います。外国人で定住してくれる人はどんどん定住してもらおうと、単純労働ではなく知的な労働にもどんどん携わってもらおうような、非常に立志性の高い人を充実して、地方創生交付金を取ってもらいたいと思います。菊川の場合は交付金の額が他の自治体に比べてやや少ないかなと、もう少し積極的に取りに行く形でやっていただけたらと思います。それから2つ目に先ほどから出ています多文化共生、多様な人材が非常に増えていますので、それもどんどん定住化させるような、若い教育が非常に問題ですので、そういう点も含めて大胆な提案をして地方創生交付金を獲得していただきたいと思っています。地方創生自体に私は非常に不満でございまして、結局国に振り回されてこれは事務局も前々から感想をもっておりますけども、そこを寧ろここから本来の地方創生を打ち抜くぐらいの感じで取り組んでいただけたらと思っております。時間も大分過ぎてしまいましたので事務局の方からここだけは答えておきたいということがありましたらお願いしたいと思います。

事務局：先ほど委員から農学芸の今後の方向性のところでお話しいただきましたのでお答えさせていただきます。市の事業としましては、昨年度終了してしまっていて、昨年の7月に

法人化をしていただき、今後自立して、この事業が継続していくように取り組んでいただいているところです。ここに県外の自治体、県内の他の自治体と書いてありますけど、現在、千葉県柏市の柏の葉ジュニアビレッジ、横須賀ジュニアビレッジということで実際に事業を昨年度から始めております。それ以外にも県内の他の自治体、浜松市が来月から浜松版のジュニアビレッジを実際に開始すると伺っております、そういった取組みが広まってきているということになっております。ただ、やはり他のところが盛り上がっても菊川が発祥ということで菊川が盛り上がらないといけませんので我々も市として引き続き協力、連携を進めていきたいと考えているところでございます。

事務局：次期の総合戦略について皆さんからご意見をいただいた中でやはり今後続けていくべきものということで子育ての問題、健康づくりというお話しもいただきました。また新しい視点で多文化共生、多様性という問題、それから自然の中で例えば今話題になっていますグリーンインフラの話も出てきていますので、こういった新しい視点を取り入れるということも当然必要になってくると思います。今日は時間もないものですから方向性を出すのは難しいですが、頂いた意見を事務局、それから今日は担当部長も出ておりますので、一度整理させていただいていくということの一つ作業としてやらせていただきたいなと思っています。また、すべてご意見いただけなかった部分もございまして、さきほど担当の方から8月いっぱいという話もありましたので、できればご意見いただいた中で特にこの基本目標や基本施策の部分ももう少し詰めさせていただきたいなと、意見が出なかった部分については、不要なのかそれとも当然当たり前なことなのかのかわかりかねる部分もありますので意見をまとめさせていただく時間をいただけたらと思います。それを今後どういう形で次期の総合戦略として位置づけるか、今後どう審議会を進めさせていただくかは大変申し訳ありませんが会長にもご相談に乗っていただきたいと思っています。今日は方向性を出すまでに至らなかった部分もありますので、もう少し整理するお時間をいただければというのが本日の事務局の答えでございまして。

会長：ありがとうございました。今日は皆さんまだまだ発言されたいという部分があったかと思いますが、8月いっぱいまでに少しペーパーでもぜひ出していただけて出来ましたらぜひ次の機会に大いに激論を交わしたいと、農業の関係も議論していきたいと思っていますのでお願いしたいと思っています。それでは議事を終了しまして進行を事務局にお返ししたいと思います。

事務局：皆様大変たくさんのご意見いただきましてありがとうございました。今頂いた意見を整理させていただきながらまた皆様からご意見を頂戴いたしまして内部で検討させていただきたいと思っています。資料の中にも今後のスケジュール次回12月というふうにかかせていただいておりますけども、こちらは状況に応じて時期によりましては検討いたしましてまた皆様にご相談をさせていただきたいと思っております。引き続き

よろしくお願いたします。

8 その他

会 長：1点、今回欠席した委員からも意見を聞いていただけますでしょうか。

事 務 局：承知しました。欠席されています委員の皆様へ今日の内容を報告しまして、またご意見いただくような形でやりたいと思います。大変長時間にわたりご協力ありがとうございました。最後に副会長より閉会のご挨拶をお願いいたします。

9 閉会

副 会 長：先週日曜日、参議院選挙が終わりました。静岡県は賑やかな選挙戦だったと思います。投票率は菊川市が62.87%、60%以上の市町全部合わせて4つぐらいだったと思いますが、市の部では菊川市が圧倒的に高い投票率を示していました。静岡県の平均が50.46%、また、全国平均が48.80%ですから相当やはり菊川市民は社会生活というものにまじめに対応して生きているという自負を持って良いのではないかと思います。この2名の参議院議員がこれから6年間国民の負託に答えて仕事をしていただくわけですが、6年後というと2025年です。2025年問題をしっかり抱えている期間の中でこれからの6年間になります。この6年間はものすごく日本の環境といいますか社会が変化する、日本地図そのものが変化する6年間になっていくのだろうと思います。あるデータを調べましたら、今1,741日本に自治体がありますが、そのうちの111が限界自治体になるそうです。数年間で自然消滅になるかと思っています。それから、特に顕著なのは県庁所在地の人口が急激に減少することです。菊川市も多分そのころは今よりも様変わりしていく可能性があるふうに見ていかなければいけないのだろうと思います。特に2025年問題に引き合うと超高齢化社会が急激に進展する年ですので、先ほど私が、申し上げたのはそういう危惧があったからです。今、この審議会の中で第1期の地方創生が、今年度で終了しますということで、いろいろな話が載っていますが、地方創生というのは安倍内閣の最も重要な政策の柱だということで首相自らが強調してきたのですが一番の柱の東京一極集中が全く改善されるどころか悪化の一途をたどっているということで、またそれに対する具体的な施策が打たれていない。もうとうに目標そのものを諦めてしまっているのが今の国の姿勢だと私は思っています。ただ菊川市の場合は、今から来年、第2期の地方創生が始まりますけどもしっかりと第1期の結果検証をしてそれが菊川市にとってどれだけプラスになっていくのかをしっかりと見極める中で第2期の計画を組み立てていく必要があるかと思っていますのでその辺については、行政の方々はもちろんですけどもこの審議会のメンバーもしっかり注目をしていきたいと思っています。最近選挙もそうでしたけど、現政権は、耳障りの良いキャッチフレーズをいっぱい次から次に新しい言葉を発しますが、結果検証が全くされておらず、知らない間に都合の悪いものは消えてしまっている、それではい

けないと思います。少なくとも菊川市の場合は市民みんなが納得できると言いますか、納得というより菊川市は住んでも良いし、菊川市は良いまちだなというふうに理解できるような体制づくりをこれからも進めていただきたいし我々も協力していく必要があると思います。本日はありがとうございました。